

バンコクスラムのコミュニティについて

背景

私は2007年3月にSVAカンボジア事務所の視察でスラムのコミュニティに興味を持った。多くの社会問題を抱えているであろうスラムの中で、コミュニティはどのような構造になっているのか、住民の主体的な活動にはどのようなものがあるのか、またその人たちはどのような理由から、その活動を行っているのか、というのが一番の関心だった。そのことがきっかけとなり、2008年2月13日から3月12日までの1ヶ月間、SVAタイランド事務所でインターンシップを行った。

目的

調査の目的は2つである。

スラム内のコミュニティ組織について調べること

住民の主体的なまちづくり活動の要因について探ること

調査方法

まず、コミュニティの全体像把握のため、バンコクスラム地域に関する先行研究から、スラム内のコミュニティ組織について把握し、スラム内で活動するNGO団体(シーカーアジア財団、デュアン・プラティーブ財団)への聴き取り調査を実施した。

次に、スラム内のコミュニティについて、マクロな視点(生活者自身の視点)で把握することとした。SVAタイランド事務所スタッフ1名に対する聴き取り調査、参与観察を実施し、生活者にとってのコミュニティについて把握することとした。また、ここで聴き取り調査を実施したGさんは、クロントイスラム内で生まれ、Gさんの主体的な活動として現在のNGOの仕事に従事していることから、彼女がNGOで働く理由についても考察していきたい。

1. コミュニティに関する全体像の把握

ここでは、バンコク内の「スラム」について把握するため、先行研究の整理とNGO団体への聴き取り調査を実施した。

(1) タイ地域のコミュニティ組織

CODI (Community Organizations Development Institute: 「コミュニティ組織開発機構」)

タイ政府の社会開発生活保障省に所属する公共機関であり、タイ全土の都市・農村の貧困コミュニティにおける生活環境改善、コミュニティ住民組織のネットワークの強化

を目的に活動している。コミュニティの住民自身による経済・福祉・環境活動のサポート、主に都市スラムにおける土地や住宅問題の解決に取り組んでいる。行政・その他あらゆる公共セクターとパートナーシップを組み活動している。

< CODI の取り組み - Baan Mankong Program(「安定した住まい」計画) >

2003 年から 5 年間でタイ全土のスラム地区改善、主に土地所有権の問題解決を行う計画であり、CODI はタイ政府の社会開発保障省とコミュニティをつなぐ、ファシリテーターの役割を担う。

地域事業をトップダウンではなく、住民・地方自治体・開発事業者・土地所有者などの関係者との協力関係において進め、住民自身がプロジェクトを計画・主導しコミュニティで運営していくものとする。

2 . SVA タイランド事務所スタッフから見るスラムコミュニティ

ここでは、スラム内のコミュニティについて、生活者自身の視点でコミュニティを把握することとした。そのため、クrontoiスラムで生まれ育ち、SVA タイランド事務所スタッフとなったウッパシー・アリッサーさん(女性・25 歳、以下Gさんとする)に対し、聞き取り調査と参与観察を実施し、コミュニティ把握に努めた。また、Gさんの考えや生活スタイルについてより深く理解するため、SVA タイランド事務所の他のスタッフに対しても一部聞き取り調査を実施した。

面接者：ウッパシー・アリッサーさん Uppasri, Alissa (1982 年生まれ・女性)

選定理由：クrontoiで生まれ育ち、スラム内で活動する NGO 団体に働いている。

調査方法：聞き取り調査と参与観察を実施。

調査日時：(聞き取り調査)2008 年 3 月 3 日、(参与観察)2008 年 3 月 6 日、10 日

< 聞き取り調査・項目 >

本調査の目的から以下の項目を選定した。

生活環境について

名前・年齢・性別・家族(構成員)・出身地・現在の住まい・移転の有無・タイムスケジュール・仲間・人間関係・趣味など

地域との関わり

地域住民組織への参加の有無・ボランティア活動への参加の有無・地域の中でよく話をするのは何人か・親類や友達が近くに住んでいるか

SVA との関わり

SVA での活動の経緯・活動歴・仕事内容・仕事のやりがい、楽しさ、今後の夢や希望

(1) 聴き取り調査結果

現在の生活について

ウッパシー・アリッサーさん(以下、Gさんとする)はSVA タイランド事務所の図書館スタッフである。図書館スタッフの仕事内容は、図書館の運営(本の読み聞かせ、本の貸し出し、うた・ゲーム・工作活動)、文化伝承活動(踊り)、特別文化活動(遠足、キャンプ、地域イベントへの参加)、移動図書館活動(おはなしキャラバン、保育園・地域への本の貸し出し)、保育士のためのおはなし研修会等である。SVA のクロントイ事務所には2008年現在、図書館スタッフが5名おり、Gさんは普段行われる図書館の運営業務以外に、「保育士のためのおはなし研修会」の担当を行っている。また、他のスタッフの出張があれば、そのスタッフの業務をGさんが引き継いで行うため、仕事内容は多岐にわたっている。

過去の生活経験

Gさんは、1982年クロントイスラムで生まれた。家族は、父、母、弟、Gさんの4人で、近所におばあさんとおじさん家族が住んでいた。1989年にクロントイスラム地区以外に引っ越しをしたGさん家族だったが、Gさんの両親が漁業関係の仕事をしており、朝から夜8時くらいまでは家にいなかったため、クロントイ地区内の小学校に通い、両親が帰宅するまでは、クロントイスラム内にあるおばあさんの家で遊んで生活していた。おばあさんの家の近所には学校の同級生も多く、学校が終わると、絵を描いたり、テレビを見たり、SVAのクロントイ図書館に本を借りに行くなどして遊んでいた。(SVAクロントイ図書館は1986年から1988年ごろ設立され、Gさんは1989年の時から本を借りに通っている。)

当時(1990年)の地域住民の活動について訪ねたところ、年に一度4月にお祭りが開催されていたため、その時は住民委員会が率先して活動を行っていたようである。その他、特に活動については覚えていない。

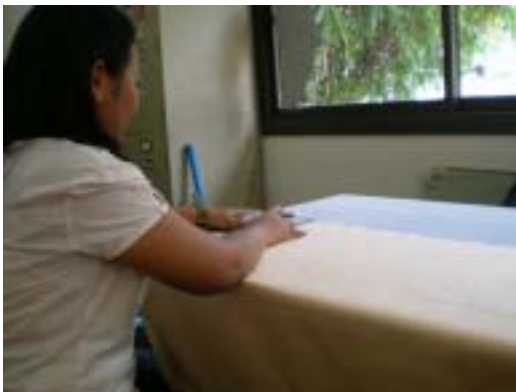
SVAでの活動の経緯や職業経験

ギップさんがシーカーアジア財団で働くようになったのは、2001年(当時17歳)からである。高校生だったギップさんは、小学校から通っているSVAの図書館でボランティアを募集していることを知り、図書館で働けば大好きな本を十分楽しめるだろうと考え、ボランティア活動を開始した。2002年になり、当時の図書館スタッフが退職したのを契機に、SVAタイランド事務所の正規スタッフとなった。翌年2003年からは、茨城県生活環境部国際交流課が主催する「茨城県海外技術研修」に参加し約8ヶ月を日本(茨城)で幼児教育(子どもの活動と指導、活動計画の立て方、子どもの遊び、絵画制作、読み聞かせ)を学びながら過ごした。その後、タイに帰国し南タイのパンガー県で津波(2004年12月26日発生スマトラ島沖地震)被災地の図書館事業に従事した。SVA

事務所では、南タイへの支援を 2004 年 2 月に開始。ギップさんが南タイの仕事を開始したのは 2004 年の年末で、津波避難所に仮設図書館が出来る 1 ヶ月ほど前である。その時には、現地スタッフの募集を行い、そのスタッフの人材育成（仕事内容、図書館の本に関する知識の習得、読み聞かせ、活動する上での心得、などの指導）に従事した。2006 年からは SVA タイランド事務所のあるクロントイ図書館に戻り、2008 年現在まで、図書館スタッフを行っている。特に「保育士のためのおはなし研修会」の担当を行っており、日本で学んだ幼児教育の知識と、人材育成での指導力を発揮できる仕事を行っている。

本や図書館が大好きで SVA へ就職した G さんだったが、現在は本や図書館と直接関わらない仕事をおこなっている。しかし G さんは仕事が楽しいと話す。それは、新しいことが覚えられる喜びと、人と協力して仕事を達成する実感が持てるからだ話す。

時間	仕事内容	G さんの動き
8:45	バイクタクシーで出勤	スタッフにあいさつ
9:00 - 9:15	全スタッフと朝のミーティング	全員に今日の仕事内容を伝える。
9:15-9:45	併設されている図書館の開館準備	ボランティアの学生 2 名に指導しながら図書館の掃除、本の整理
9:45-10:00	図書館スタッフの部屋の掃除・メールのチェック	
10:00-10:45	電話対応	
10:45-11:00	事務所スタッフと話し合い	他事務所から送られてき事業報告書の内容について。
11:00-12:00	教員セミナーの準備	フェルトや型紙を切る作業。
12:00-12:45	昼食	歩いてすぐの食堂でランチ。(スタッフの人とその食堂でよく食べる。)
12:45-13:00	メールのチェック	
13:00-14:00	資料作成	他事務所からの事業報告書が届かなかったため、代わりに作成。
14:00-14:30	ボランティアの学生 1 名を指導	
14:30-14:35	スタッフと話し合い	
14:35-15:30	事業報告書まとめ	
15:30-15:45	図書館スタッフと話し合い	
15:45-19:00	パッチワークづくり	エプロンシアターのパッチワークづくりを行った。



3. 分析

地域住民組織（カナカマカーンチュムチョン）の理解

項目	YES	NO
地域住民組織を知っている		
地域住民組織の活動を知っている		
地域住民組織への所属		
活動（ゴミ拾い・毎週）への参加		

Gさんの家族に聴き取りを行ったところ、同じ結果であった。

Gさんの生活から見るコミュニティ

項目	クロントイ内	クロントイ外
買い物	×	
食事		
住まい		
家族		×

仕事		
遊ぶ		
時間	10h ~ 11h	13h ~ 14h

現在のGさんのクロントイスラムとの関わりは「家族」と「仕事」の繋がりである。

終わりに（研修を通して）

スラムの人々は生活が苦しく、逃げ出したいけれど逃げ出せない、そんな生活をしているのだと思っていました。しかし、バンコクへ行き自分の間違いに気づきました。確かに、「もっと良い暮らしをしたい」と思っている人は多いかもしれません。けれど、狭い路地、密集する家屋だからこそできる近所との深い付き合い方、心を許せる友達がいり、毎日楽しく飲める店がある、子どもたちから通い詰めている駄菓子屋があり、すぐ買い物に行ける...住んでいる人にとって「居心地のいい空間」がそこにはありました。住んでいる人にとってのコミュニティは、「住みやすい場所」であり、日本やタイとなんら変わらないのかもしれませんが。むしろ、日本にはもうなくなりつつある、近所や親戚との繋がり、顔が見えて心配しあえる関係がバンコクのスラムにはある気がしました。

けれど、そこには多くの問題があります。麻薬、犯罪、虐待、HIV、衛生面...（註1）しかもこの場合、当事者の多くは問題だとすら気づいていない場合が多いです。（こんなことがありました。チュアン・プラティープ財団が行っている「生き直しの学校」という場所に行かせてもらった時のことです。この学校では、親に虐待された、捨てられた、レイプされた、麻薬中毒になった...そんな子どもたちが行く場所です。みんな何かしら見える傷跡がありました。こんなに小さい子どもたちが体にも心にも傷を負って生きていて、そしてその子たちに何も出来ない自分が情けなくなりました。）

辛い思いをする子どもがいなくなるように、そして、みんなが安心して生きていける社会であるために「教育」が必要であり、その先に、安心したコミュニティづくりの主体となる住民がいるのだと思います。そしてそのためには、みんなが「気づいて」いかなければなりません。NGOの活動は、「お金を使って支援してあげる」ものではなく、住民とともに地域を生きやすい場所へ改善していく作業なのだと感じています。

註1

川澄厚志著 修士論文 「タイ都市貧困層コミュニティにおける参加型開発と住民組織の変容に関する研究」2006より

<スラム地域の諸問題>

バンコクのほとんどが湿地地帯や柔軟で開発されにくい運河や鉄道沿いの橋の下に形成され、川が隣接しているため排水が困難であり洪水がしばしば起こる。また、ベニヤやトタンの古材でつくられた狭い家が多いなどの「生活・住環境問題」
非合法にスラムを形成した人々の住民登録は困難で、タイ人に対する ID カード(身分証明書)が手に入れることができず、それゆえ十分な教育を受けられず、正規の職業にもつけないなどの「法的問題」

交通・通信省、港湾管轄の公有地であるため、強制立ち退きなどの移転問題を抱えている「立ち退き問題」

親の麻薬中毒や犯罪によって家庭が崩壊し、行き場を失った子どもたちが犯罪や麻薬にそまるなどの「社会的な問題」

スラム住民の職業は、港湾労働者、工場の日雇い労働者、タクシー・バイクタクシー運転手、廃品回収業、売春などの職場なため、低賃金で不利な労働条件下で働いている。したがって、満足な生活水準を確保することが困難な「経済的問題」

貧困ゆえの教育機会の欠如、また家庭内事情による中退者や学校の通えない子どもが存在するなどの「教育問題」

住民票を取得できない住民は、高額な医療費を自己負担しなねばならず、薬局などでの薬で済まず場合も多いが、薬の用途や副作用の誤解などが生じる「健康問題」

引用・参考文献

http://www.codi.or.th/index.php?option=com_content&task=category§ionid=9&id=136&Itemid=52Community Organizations Development Institute(CODI) in Thailand
ホームページより

秦辰也著 博士論文 「タイの都市スラムにおける住民参加と子ども参加による持続可能なまちづくりに関する研究 - 青少年と大人の参加による居住環境改善活動への取り組みを中心に - 」2004

川澄厚志著 修士論文 「タイ都市貧困層コミュニティにおける参加型開発と住民組織の変容に関する研究」2006

中村真珠氏 住宅都市国際協力研究会 「貧困者自身による生活環境改善を目指す取り組み - タイにおける公共機関 CODI の事例報告 - 」2004

「バンコク週報」2008年3月3日~3月9日

川澄厚志「タイにおける住民参加型コミュニティ開発の関する考察 - クロントイ 2004

吉田圭助 「タイ・都市貧困層コミュニティにおけるコミュニティ開発と社会移動に関する研究」2008